



島踊りの練習が始まるという呼びかけ
 がかかり、7時ちょうどにスタート。さ
 すが代々続いているだけあって、スケ
 ジュール通りにスムーズに事が運ぶ。

練習は、踊りと、歌に分かれる。男性た
 ちと、子どもたちは全員駐車場で踊りの
 練習。まだ本番には参加できない小さな
 子たちも、練習には参加する。そうする
 うちに自然に覚えてしまうようだ。1年
 ぶりにウォーミングアップするような
 和やかな雰囲気練習が始まる。しぼら
 くして、通しの練習が始まった。間違え
 ると、まわりの指導係の先輩方からすか
 さず「しっかりしろー、ぼけるなー
 (笑!)」の声がかかり、笑いを誘う。まだ
 踊りの輪のなかに参加できない小さな
 子どもたちも食い入るように見つめて
 いる。

歌の担当は、子ども会のお母さんた
 ち。鹿島踊りの際には本来歌を歌いなが
 ら踊るのだが、この歌が非常に難しい。
 まず、側で聞いていても、なかなか言葉
 がわからない。上の句と下の句があるそ
 うなのだが、それをゆっくりかつ、上の
 句と下の句を行ったり来たりしながら
 進んでいくらしく、覚えるのも一苦勞。
 あまりにも難しすぎるため、最近では子
 ども会のお母さんたちが本番まで毎日
 歌だけを専門で練習して担当するとい
 う事になったそうだ。

根府川の子どもたちが通う片浦小学
 校は市内のどこからでも通える小規模
 特認校。そのため、学校が終わった後の
 鹿島踊りの練習にも、市内の他の地域か
 ら通う生徒たちも参加していると聞い
 て驚いた。親御さんたちは、街中では
 中々体験できない事を子どもに経験さ
 せてあげたいと考えているそうだ。
 もしかしたら、これからの伝統芸能の
 継承の形というのは、この根府川地区の
 鹿島踊りのように、地域の人間だけでな
 く色々な人が参加しやすい、開かれた環
 境にその活路があるのかもしれない。



根府川寺山神社鹿島踊保存会
 会長 内田正之さん

「特認校の子どもたちも参加し、
 大きくなって一緒に踊って欲
 しい。」



根府川自治会長
 廣井博直さん

「特認校の子どもたちが半分以
 上いる。若い人の参加も増えて
 地域の活性化に繋がってきてい
 て喜ばしい。」



寺山神社総代
 勝又一夫さん

「子どもへの継承が使命だと
 思っています。末長く繋げてい
 きたい。」

